

名古屋大学レクチャー2010を開催



講演の様子

名古屋大学レクチャー2010「生命とは何か－DNA から『からだ』ができるまで－」が、3月31日(水)、豊田講堂において開催されました。

同レクチャーは、本学が主催する最も重要な講演会の一つで、分野を問わず、世界的に高名な研究者の講演を広く一般の方々に公開し、現代世界の最高の「知」に触れていただくために行われるもので、講演者には、名古屋大学レクチャーシップの称号及び表彰楯が授与されます。

5回目となった今回は、共に本学理学部出身であり、文化功労者に顕彰された、本学名誉教授である杉浦昌弘博士と理化学研究所発生・再生科学総合研究センター長である竹市雅俊博士を講演者に招き、膨大なDNA情報が伝達される原理を追求する「分子生物学」と、受精卵から複雑な個体が形成される細胞の組織化を解明する「発生生物学」における両者の研究についての講演が行われました。

杉浦博士は、双子葉植物タバコを用いて、1986年に植物葉緑体ゲノムの全塩基配列を世界で初めて決定しました。この業績はゲノム生物学のパイオニアワークで、広く世界に知られています。また、竹市博士は、細胞と細胞との接

着剤である細胞接着分子の「カドヘリン」の発見者として国際的に大変有名です。これらの画期的な功績は、それぞれ、「DNA情報の伝達」や「細胞と組織作り」という生命の根源の解明に大きな貢献を果たしたものであり、医療など幅広い分野において、大きな革新をもたらすものです。

当日は、はじめに濱口総長のあいさつの後、まず、町田泰則理学研究科教授が、「分子生物学」の基礎知識や杉浦博士の人柄について話しました。

その後、杉浦博士が、「葉緑体ゲノムの全構造を決める」と題し、葉緑体ゲノムの全塩基配列の決定までの道のりについて、学生時代や留学時代のエピソードにも触れながら講演しました。

引き続き行われた名古屋大学レクチャーシップの称号及び表彰楯の授与式では、総長から杉浦博士と竹市博士に、名古屋大学レクチャーシップの表彰楯が贈呈されました。

贈呈式後は、黒岩 厚理学研究科教授が、「発生生物学」の基礎知識について分かりやすく解説し、その後、竹市博士が、「細胞による自己組織化の謎を解く」と題し、「カドヘリン」の発見に至る経緯や医療への応用等について講演しました。

それぞれの講演後に行われた参加者からの質疑応答では、杉浦博士から「何を研究するかを自分で考えて決める」、また、竹市博士から「自然に対する好奇心を持つ」と、若い世代にエールが送られました。

最後に、近藤高等研究院長から閉会のあいさつがあり、大盛況のうちに終了しました。今回は、本学教職員、中・高校生や一般の方々など約1,000名が参加し、参加者からは、「素晴らしかった」、「良い刺激になった」との感想が多数寄せられ、大変有意義なものとなりました。

また、本レクチャーに先立ち、午前中には、杉浦博士と竹市博士への本学特別教授の称号授与式が執り行われました。



レクチャーシップ表彰楯授与式の様子(左から、杉浦博士、総長、竹市博士)